はじめに

本誌『コンタクト・ゾーン』は、人文科学ならびに社会科学で注目されている接触領域（コンタクト・ゾーン）についての研究を公表し、議論を活性化する場を提供するために企画された不定期刊行物として、2008 年に公刊された。

コンタクト・ゾーンは、アメリカの文学研究家のマリー・ルイーズ・プラットが『帝国のまなざし』（1992 年公刊）で使用したものとして知られている。彼女はヨーロッパを中心とする植民地宗主国（厳密には都市部であるメトロポリタン）と非ヨーロッパ諸国（およびヨーロッパの非都市部）との非対称的な、しかし一方的ではない、「接触」を主たるコンタクト・ゾーンとして想定している。ただし、本誌所収の諸論文から明らかなように、本誌では彼女の問題意識を継承しつつも、対象の拡大地域（エリア）概念批判など、さらなる展開を目指していることをことわっておきたい。

本号は、京都人類学研究会が 2015 年 7 月に主宰したシンポジウム「世俗社会のなかのモラル／モラリティ：世俗的論理と宗教的論理の接合と非接合」（企画、北九州大学・神原ゆうこ）の発表に基づく特集論文を 5 本、また投稿論文を 1 本掲載している。対象も専門も異なるが、コンタクト・ゾーンという観点から研究対象に迫るという点で共通している。コンタクト・ゾーンに関わる書物を対象とする書評 8 本（一部著者によるリプライを含む）を併せて読んでいただければ幸いである。

編集にあたっては、引き続き朝日美佳氏にお世話になった。

田中雅一（編集代表）

2016 年 3 月